



パースのフォレストプレイス

老健の健全経営を目指して

社団法人 群馬県老人保健施設協会

理事長 高玉真光

新年おめでとうございます。

平成23年のお正月を休みも無く、毎日お仕事に努力され、本当にありがとうございます。

昨年度から介護施設における介護福祉士に対して、介護職員処遇改善交付金が支給され、高齢者を介護する職員が極めて大切である事を国は認めました。しかし、施設療養費の増加は、わずかプラス3%にすぎませんでした。その3%もすべて加算であり、栄養マネージメントや短期集中リハビリテーションなどでした。

来年4月は医療・介護同時改定の年です。国に対して高齢者のリハビリテーションが極めて重要であることを訴えていかなくはなりません。介護保険におけるリハビリテーションの大切さは、全国民が認めることとなり、今では認知症に対する短期集中リハビリテーションは1回240単位として認められました。昨年、岡山市で開催された全国老人保健施設大会には、多くの演題が発表されましたが、県内施設の短期集中リハビリテーションの発表は少ないものでした。どうか各施設で短期集中リハビリテーションを行っていただきますようお願い致します。

そして老健施設の健全経営を目指しましょう。

第20回群馬県老人保健施設大会
在宅力と介護力～笑顔あふれる支援を目指して～
主催 (社)群馬県老人保健施設協会



開会式

第20回(平成22年度)

群馬県老人保健施設大会

期日 平成22年10月30日(土) 会場 安中市松井田文化会館他

第20回老健大会を終わって

介護老人保健施設せせらぎ苑施設長 高橋 好一



大会長 高橋好一先生

当日はあいにく台風による大雨の中での大会でしたが、大勢の皆様にご参加いただき盛大に開催することができました。間近に妙義山をお見せできなかったことが心残りですが・・・。

今回は20回大会という記念すべき大会でした。団塊の世代の高齢化により、今後急増する在宅介護とそれを支える老健の役割を考え、大会テーマを「在宅力と介護力～笑顔あふれる支援を目指して～」としました。そして長年にわたりご主人の大島清映画監督を在宅で介護されている女優の小山明子先生に「一人三脚で乗り越えた介護の日々～今日も二人で～」の特別講演をしていただきました。実際の介護体験を披露していただき90分がとても短く感じました。皆様も大変感銘を受けたことと思います。引き続き在宅復帰支援を強力にサポートするR4システムについて、安藤繁先生にわかりやすく講演していただきました。また上州松井田峠太鼓の演奏で最後を盛り上げていただきました。

そして何より大事な皆様の発表を83題も頂きました。各施設での積極的な研究や取り組みが発表され、それに対し熱心な質疑応答があり、実り多い大会となりました。ランチオンセミナーでは大会テーマにあわせて介護者のメンタルヘルスも加えてみました。ご講演いただきました先生方に感謝申し上げます。

今回の大会に当たり、西毛ブロックの皆様には多大なご協力を頂きました。特に運営委員の皆様にはお忙しい中遠くまで何回も足を運び、また当日は雨の中での車の誘導や各会場のスムーズな進行に心配りをしていただきました。また若い施設であるせせらぎ苑が大会を受け持たせていただきましたが、大会の準備を通して職員のチームワークが一段と向上したように思います。本大会が今後益々発展することを祈念して、感謝の言葉とさせていただきます。



上州松井田峠太鼓



永年勤続表彰



特別講演: 安藤繁先生



特別講演: 小山明子先生



ランチョンセミナー



ポスター発表

アンケート結果

Q1 口演発表について感じたことは?

- 各施設共に、さまざまな研究や取り組みが聞けて良かった。今後取り組んでいきたい。聞く側のマナーも良かった。
- 会場によって発表者の声が小さく聞きづらい時があったので、マイクの音量を調節して欲しかった。
- 発表者は緊張しているので質問が難しいと思う。共同研究者を近くに配置し答えやすい環境があれば質問する方もし易いのでは。
- 質疑応答について、3施設づつにするという工夫が良かった。また逆に、わかりにくいという面の意見もあり。

Q2 ポスター発表について感じたことは?

- 口演発表と違い、目に見えるのでとても参考になった。自分の施設でも取り入れてみたい物もたくさんあった。
- ポスター作りを工夫している施設が多く、自分が行う際に参考にしたい。
- プリントアウトして持って帰りたい人に対応できたらと思いました。

Q3 ランチョンセミナーはいかがでしたか?

- 専門の方に講演して貰えたので、大変勉強になりました。解りやすい内容で今後に活かせると思った。

Q4 特別講演はいかがでしたか?

- 小山先生の知識の豊富さに驚いた。実体験からなので解り易く、介護職にとってとても為になる講演だった。
- 75歳に見えない力強い声、立ち居振る舞い、大変な介護を前向きにとらえて素晴らしい講演でした。
- 小山明子さんの講演のみ参加させて頂きました。現在、自宅で義母をみています。義母がデイケア・ショートステイを利用させて頂いています。講演の内容は家族にとって力になる内容だったと思います。ありがとうございました。

Q5 展示ブースはいかがでしたか?

- 試供品がもらえて良かった。ピヨ丸が良かった。
- 介護関連の本もあって良いと思います。
- 最新のマットの材質など色々な物が参考になった。
- 丁寧に説明してくれてとても良かったです。

Q6 全体の雰囲気はいかがでしたか?

- 運営委員さんや会場の係の方々の動きが素晴らしく、とてもスムーズで対応も良かった。
- 今回のテーマが「笑顔」だけに雰囲気明るかったような気がします。
- 全体が他者の口演に真剣に聞いており、雰囲気はとても良かったです。

Q7 今大会で良かった点は何ですか?

- 太鼓の演奏が生で聴けて良かった。
- 雨にも関わらず遠方からの参加者も多く盛況で良かった。一所懸命案内係をして下さった方、運転手の方々も対応が良かったです。
- 講演会が1ホールでも放映されている点は良かった。大ホールで見るより良かったかも。
- 他施設の人と情報交換ができた。

Q8 今大会で悪かった点は何ですか?

- 会場案内の表示はもっと大きい方が良かった。
- アトラクション、閉会式に参加する方が少ない。各施設の指導を促す事で改善できるのではないかと。
- 抄録集の訂正箇所が多かった。



展示ブース

口演発表

赤城苑



地域交流

当苑通所では地域交流の一環として、近隣の保育園に作品を持って訪問し贈呈するという活動を行っています。折紙細工で1作品3000個程使用し、コツコツと作り上げた大作で大変喜ばれています。



リハビリ着物クラブ

リハビリでは認知症アプローチの一環として、二部式着物の作成や試着を入所・通所ともにクラブとして行っています。現在40名ほどの女性利用者様が参加しており、利用者様・ご家族様に大変評判がよく撮影会をみんな心待ちにしています。



近隣の小学校との交流会

小学生のみなさんがあそびに来てくれました。楽しい時間と元気をたくさん貰いました☆

ケアピース

秋祭り

毎年恒例の「ケアピース秋祭り」が今年も開催されました！焼きそば、フランクフルト、綿あめなどのおいしそうな模擬店メニューに舌鼓を打ち、豊岡太鼓、八木節などのイベントを鑑賞し盛り上がりました。



オープン行事

毎月ご家族様との交流会としてオープン行事を開催しています。12月のオープン行事では、年の終わりにらしい催しものを行いました。



ケーキ作りに挑戦！クリスマスケーキ作りをしました。生クリームをスポンジにのせて、いちごやみかんなどでトッピング!! みんなでおいしくほおばりました。サンタのおじさんも一緒に参加です。

第17回 みてみて コーナー

「みてみて! 私たちの施設こんなことやってるよ!」と名前の通りの「みてみてコーナー」。利用者様の作品から施設の行事、職員の行事だって何でも載せちゃいます。

アルボース

小学生慰問

毎年、伊勢崎市立三郷小学校の3年生の生徒さんが当施設を慰問して下さいます。全員で歌を披露してくれたり利用者様と手遊びや風船で遊んだりしながら楽しいひとときを過ごします。涙を流す利用者様、屈託のない笑顔に向ける小学生、利用者様お一人お一人に小学生の皆さんが折った折り紙のプレゼントもありました。



アルボースコレクション 2010

11月19日、何年か振りに「アルボースコレクション2010」と題したファッションショーを開催しました。利用者様ご自慢の衣装や思い出のたくさん詰まった衣装を身に付け、緊張の面持ちでその衣装にまつわるお話をされたり、カンツォーネを披露して下さいたり... スタッフサービスで男性スタッフによる女装など、大盛況のうちに幕を閉じました。利用者様の長い歴史の中で、ご自分の輝いていた時期を思い起こされる姿に観ているスタッフも感極まる場面がたくさんありました。



お花見 (桜、菖蒲)

お花見の季節、入所されている利用者様に季節を感じていただく為に、毎年近くの河川敷や菖蒲園に出掛けます。お花を見ると利用者様のこぼれんばかりの笑顔を目にすることが出来ます。



◀写真は一緒に行かれた娘様とのツーショット。

もうすぐ年末ということで... 職員手作りの「干支物語」の紙芝居。十二支は全部言えるかな? 来年の干支は何だろう? っと考えながら真剣にお話を聞きました。



原稿・作品大募集

「ひろば」は皆さんの施設の情報をおまじしてあります。自分の施設を思いっきり宣伝してみませんか? ご意見・ご感想、アイデアなども大募集! 郵送・メールどちらでもOKです。(原則として写真は返却いたしません)

- 北・中毛地区 高橋久美子 (陽光苑)
・住所/〒371-0847 前橋市大友町3-26-8
TEL.027-253-3310
- アドレス/youkouen@ronenbyo.or.jp
- 東毛地区 春山裕子 (サンホープ笠懸)
・住所/〒379-2313 みどり市笠懸町鹿2646-1
TEL.0277-76-1100
- アドレス/sunhope_yoshimoto@yahoo.co.jp
- 西毛地区 多胡一史 (二之沢バナケア)
・住所/〒370-3531 高崎市足門町158-2
TEL.027-372-3711
- アドレス/ninosawa@toriton.ocn.ne.jp

東毛

伊勢崎市 介護老人保健施設 ひまわり

管理課管理係 係長 吉田 良人

介護老人保健施設ひまわりは、平成11年5月12日に伊勢崎佐波医療事務市町村組合立の施設として開設した。その後、市町村合併に伴い平成17年1月1日伊勢崎市の設立する施設として現在に至っている。事務職員は、開設当初3名と支援相談員1名の4人態勢となっていた。現在は事務員2名、支援相談員1名、臨時事務員2名である。

また、訪問看護ステーションいせさきも併設されており、事務は相談員以外兼務となっている。課長職については病院事業と兼務で行っている。

予算・決算・介護報酬請求・通所リハビリの送迎の運転・施設宮構管理と事務職が抱える業務は多岐に亘っている。いわゆる何でも屋である。病院事業・老健事業・訪問事業とそれぞれ会計が別になっている関係上、規模は別として同様な事務処理、書類作成等が求められ苦労する場面もある。職員の増員も考えられるが施設の規模からして増員は難しい状況である。

支援相談員も1名であり自席をはずしている場合が多く、居宅支援事業所には迷惑を掛けている業況が続いている。

事務職は異動があり、開設以来私が一番長く老健に在職していることになる。その中でいつ異動になってもいいように事務内容が全員把握出来るようにしたいのが理想であるが、ある程度分担制を行わないと業務が回らないというのが現実である。

多くの時間を施設利用者と接している看護、介護職員をバックアップして利用者が安心・安全・快適に利用出来るよう日々努力している。



西毛

財団法人榛名荘 介護老人保健施設 あけぼの苑

支援相談員 石田 知里

当施設は榛名山の麓にあり、沢山の緑に囲まれたのどかな場所に建っています。入所定員は一般棟・認知専門棟各々50名とデイケア40名定員となっており、日々のサービスを提供させて頂いています。

あけぼの苑では地域に密着したサービスが提供できるように居宅ケアマネの皆様をはじめ、訪問看護・訪問介護・通所介護・福祉用具等の在宅ケアを支えている皆様と、顔を合わせての連携を取らせて頂くようにしています。お電話だけでは伝わらなかった事や、信頼関係なども顔を合わせて行う事で一段と取りやすくなっています。

職員間やご家族様との連携でも、伝えつつも理解したつもりが誤解を生じたりサービスの統一の妨げになるなど、ご利用者様にご迷惑をかけてしまう事があります。相談員が仲介役となり、他職種連携が図れるよう努力していきたいと思ひます。



北中毛

医療法人橘会 介護老人保健施設 たちばな荘

介護福祉士 西山 滋久

たちばな荘は、平成6年に開設した入所定員100床（一般棟50床、認知症専門棟50床）の渋川市北橘町にある施設です。

私達は利用されている方達の心身機能の回復やQOLの向上を目標とし、多職種と連携を図り業務を行っています。日々の業務を行っていく中で、介護の基本は「相手の立場にたてること」だと感じます。一人一人が異なる生活環境や人格を持っているので、その人らしさ=個性を尊重し、一人一人の立場に立てるよう援助を行っています。

これからもその人らしさを引き出すため喜びを共有でき、魅力ある時間を過ごして頂けるよう職員一丸となり努力していきたいと思ひます。



医療法人原会 介護老人保健施設 **旭ヶ丘**

当施設のリハビリテーションスタッフは、理学療法士3名、作業療法士3名、歯科衛生士1名、助手1名で入所100床、通所定員40名の利用者様に対してリハビリテーションサービスを提供しています。

一人一人の利用者様のニーズや状態に合わせ、歩行・立位訓練やパワーリハビリといった運動療法と、革や藤細工などの作品作りや学習療法といった作業療法を組み合わせる訓練をおこなっております。また、生活リハビリという視点でリハビリテーションマネジメントの中でも多職種連携に力を入れており、カンファレンスにも積極的に参加しています。

介護老人保健施設は在宅復帰を目的とし、医療から介護まで幅広い利用者層への対応が求められます。当施設でも、短期集中リハビリ加算・認知症短期集中リハビリ加算に取り組んできていますが、年々多様化する利用者様に対応できるよう今後更なるリハビリテーションサービスの充実に努めていきたいと思っております。そして、利用者様に幸せとさせていただける生活を提供できるようなチームアプローチを行っていききたいと思います。

作業療法士 中村 綾香



財団法人群馬慈恵会 介護老人保健施設 **せせらぎ苑**

当施設は安中市松井田町にあり、入所50床(ショートステイ含む)通所リハビリテーション20名の施設で併設病院が隣接されています。

看護師として、日々利用者様の健康管理のため、正しい手洗い・食後の口腔ケアに注意を払い、感染予防に力を入れています。その一貫として最近では「感染性胃腸炎」に備え、吐物の処理の方法・手順についていろんな場所を想定し、職員全員で勉強会を行いました。フロアはもちろん送迎車の中やリハビリ室等、吐物には使用済みのお茶の葉を使い各々が実演してみることで、誰でも迅速な対応が出来るようになりました。

これからも利用者様に健康で安全な苑内生活を送っていただくために、他職種との連携を密に協力し合い、よりよいサービスの提供が出来るよう努めていきたいと思っております。

看護師

青山 節子



医療法人健英会 介護老人保健施設 **おうみ**

ケアマネジャーの日常活動の様子

当施設では他職種と兼務せずケアマネ業務のみです。50床であるが介護支援専門員1人と相談員2人が対応してケアプランの作成・変更を行なうための一連の行為を実施しています。現場と連携し実施状況をケアマネ・担当職員が把握し、変化の状況を観察し評価を行なっています。ケアマネと現場とのアセスメント方法が違うため、他施設にはない「独自性」があります。アセスメント方法は、何をいってもニーズは同じになるはずの基本的な考え方で実施しています。短期目標を念頭に置いた連続した支援・記録・カンファレンス内容等から読み取り、月1回のモニタリング・3ヶ月に一度の短期目標の達成度を勘案し、長期目標に繋げています。「職員全員で目標達成に向けた連続した支援体勢でケアを実践」が(おうみ)の考え方です。

介護支援専門員 福田 まさ子



「社会保障の中心は人間」

介護保険制度を今のまま続けていくにはお金が足りないという報道が暮の新聞やテレビをにぎわしましたが、皆さんご記憶のことと思います。

高齢者の保険料を月額5千円以上にするとか、お金持ちは1割負担から2割負担にするとか、一方で負担は今のままでサービス利用を控えさせるとか……とにかく「財源論」の話ばかりでした。確かに何事も「財源なきことは成しえない」という金科玉条がありますが、介護保険など社会保障の分野では「先に財源ありき」ではなく「先に理念やビジョンありき」なのです。そのうえで財源論に入らなければならないと中心に据えられるべき「人間」が「お金」にすり替わってしまうのです。

「サービス利用しない人々」

国はお金がなくて困っていると言いますが、社会保険というものは精度の高い制度設計をしておけば天変地異でもなにかぎり急にお金が足りなくなるなどということはあり得ないことです。それはそれとして、被保険者である私たちの中にお金がないことだけが原因でサービスを利用しなかつたり、利用量を減らしたりしている人たちが数多くいます。

実際にそういう方々を知っています。利用料が支払えないばかりに、今、短期間の集中的なリハビリが必要なのにそれを受けられない人がいます。お役所サービスが休みになる年末年始に食事を我慢して寒さに凍えていた人もいます。介護者が急病で入院してしまったのにショートステイを利用できない人がいます。介護保険だけではありません。医療保険でも同じ理由で受診しない人がいます。早めの受診と治療をしておけば普通に日常生活を送れたであろう人が受診を控えたばかりに重

症化してしまい、入院を余儀なくされた挙句にその後の日常生活に支障をきたしている人も少なくありません。

お金のことを考えてそれほど金額の大きくない外来受診をためらったばかりに健康を著しく損ねただけではなく、高額な医療費まで要してしまう結果になったのです。

介護も医療も今よりも入り口を広くして負担額を安くしておけば、人間の一生という観点からは介護・医療に要する総額は低く抑えられるという、ある研究者の試算結果は私たちの現場感覚では正しいような気がしています。

「今年が勝負の年」

2012年、来年は介護保険制度と医療保険制度の内容と費用の両方が改定される年です。

昨年から国では厚生労働省を中心にいくつもの会議や委員会等で様々な議論がなされてきました。この類のことの常套手段の例として、まずは「値上げします」というアドバルーンを上げます。一方で少しの時間差で「値下げします」という正反対のアドバルーンも上げます。そして、国民やメディア、知識人と呼ばれる人たちの反応を見るのです。

そのうえで役所は方向性を定め、役所のトップ……つまり政治家(大臣)が最終案を決めて国会での審議につながっていきます。

そのようなことを考えますと、「まだ間に合う」とは介護保険にも医療保険にも数多くあります。お金ではなく私たち国民を中心に据えた「改定」がなされるよう、いろいろな情報に関心を持って臆することなく自分自身の意見を発信していきたいものです。

介護老人保健施設若宮苑 副施設長

安藤 繁

施設紹介 東毛ブロック

当施設は、医療法人宏愛会が運営する施設で昨年4月、介護療養病棟からの転換により発足しました。これまでの通所リハビリとともに、長期入所の方にも配慮したサービスを心がけていきたいと思っております。



医療法人宏愛会
介護療養型老人保健施設

■開 設/平成22年4月1日 ■入所定員/100名 ■通所リハビリ/30名

ナーシングケア川内の杜

〒376-0041 桐生市川内町5-3035
TEL 0277-65-5557 FAX 0277-40-3033

協会・事務局コーナー

■年度末協同行事予定

- 2月** 3日(木) 代表委員会
17日(木) 臨時理事会
18日(金) 医師研修会
25日(金) 支援相談員研修会
- 3月** 10日(木) 通常理事会・通常総会
全老健群馬県支部総会



あとながき

- T** 年末年始で体重増加!!
- H** 私の周りではインフルエンザが大流行でした。皆さんもインフルエンザには注意を。
- T** 寒さが身にしみる今日この頃風邪をひかない様うがい、手洗いの励行を!!